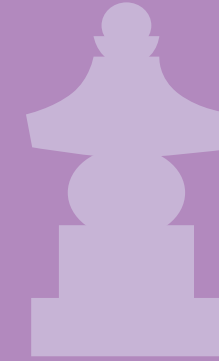


就鳥峰山登山道

祈りの参詣道

じゅうぶさんとうざんどう



金胎寺多宝塔

鷲峰山登山道～祈りの参詣道

宇治田原町と和束町にまたがる標高682mの南山城最高峰「鷲峰山」は、山岳信仰の霊場として周辺地域に大きな影響を与えてきました。また、その山系からは大滝を源とする田原川が流れ、自然の恩恵ももたらしてきました。

古くは「鷲峰山寺」を目指す人々が大道寺や和束の原山から登り、信仰のための参詣道であったことが伺えます。現在鷲峰山は歴史的な史跡や文化財を求め、豊かな自然にふれるために訪れる人たちの手軽なハイキングコースとして親しまれています。

かつて北斗星の拝所とされ、泰澄法師の「空鉢の峰」伝説の舞台である山頂からは宇治田原町内はもとより、遠く琵琶湖や大阪方面まで展望することができます。

鷲峰山へ登るには、旧登山道、湯屋谷コース、地福谷林道等、いくつものコースがあります。

コース始点には案内板、道中には道標を設置し、町HPにコースガイドを掲載しています。

全行程：約10km（維中前～旧登山道・白谷林道経由の場合）

所要時間：約7時間（同上、見学・休憩含む）

高低差：約557m（同上）

消費カロリー：約1,134kcal（体重60kgの人が平地を歩く計算）

交通アクセス：

JR奈良線「宇治」、京阪「宇治」、近鉄「新田辺」から京阪宇治バス「維中前」「工業団地」「緑苑坂」行に乗車
最寄りバス停「維中前」（立川）「工業団地口」（湯屋谷）
自動車の場合は国道307号から府道宇治木屋線犬打峠を経て鷲峰山林道を登り境内入り口前へ

山岳信仰の霊場・鷲峰山



金胎寺多宝塔



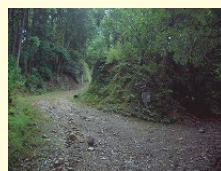
宝篋印塔

霊山としての歴史は白鳳4(675)年に役行者によって開かれたのがはじまりといわれ、奈良時代、聖武天皇の勅願寺として堂が建立されたと伝えられます。その後、吉野の大峰山に対して「北大峰」と呼ばれるほど栄え、中世の絵図には58もの堂舎が描かれています。

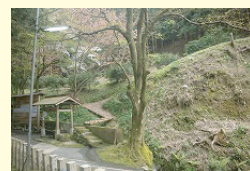
全山が「鷲峰山寺」として広大な寺領を有していましたが、元弘元(1331)年、鎌倉幕府に追われる後醍醐天皇が笠置への道中に入山したため焼かれ、その後も火災や寺領の没収により衰退していきました。現在は山頂付近が「金胎寺(こんたいじ)」として国の史跡等に指定され、山門や行者堂などがありますが、絵図の建物で現存するのは多宝塔と山頂の宝篋印塔(いずれも重要文化財)のみです。また周囲には多数の平坦地や墓地などかつての寺院の痕跡が散見されます。

鷲峰山には歴史や信仰の舞台だけではなく、豊かな自然を求めるハイカーが年間を通じて訪れます。旧登山道には距離を示す「丁石」等が置かれ、かつての参詣道の名残を感じさせます。地福谷林道から山頂にかけては「東海自然歩道」のルートになっており、道中には標識や休憩所が設置されています。

なお、現在の金胎寺境内は和束町内になります。



旧登山道コース



湯屋谷コース

立川



大道寺の柿屋



大道神社本殿

立川区の大道寺地区は、古くから鷲峰山への登山口として知られていました。

平治の乱で命を落とした藤原信西の首塚、地名の元となった大道寺、延宝8(1680)年建立の大道神社の付近は隠れた紅葉の名所です。

大道寺地区は11月中旬に特産の「古老柿」を作る「柿屋」が建ち、宇治田原独特の農村らしい景観を形作ります。

平治の乱と信西入道塚



信西入道塚



大道寺

藤原通憲(信西)は、歴史書や法律書を記した学者としても名高く、鳥羽法皇に認められて少納言に上り詰めました。彼の妻が後白河天皇の乳母であったため出家してからも政治の世界で大きな力を持ちました。

信西は平氏と手を結び、源氏の勢力を抑えようとしたのですが、これに反発した源義朝は、平清盛が熊野詣でに出かけた平治元(1159)年12月に白河院の御所を包囲し、逃亡した信西は宇治田原で最後を迎えたとされます。その後領民により手厚く葬られた首塚は「信西塚」として知られる名所となりました。

湯屋谷



永谷宗円生家



茶宗神社

青製煎茶製法(宇治製法)を開発・普及させたという永谷宗円ゆかりの地である湯屋谷にはかつて多数の寺社や湯屋があったといわれ、鷲峰山麓の地域として深い関係にあったと思われます。

湯屋谷地区から金胎寺へ至る道は、塩谷集落を通り永谷宗円生家前を経て茶宗神社境内横から山道に入ります。登山道は尾根筋の自然道で、金胎寺山門とは反対側から境内に至ります。